

# 大謝名小のスタ場!!!!

2022, 9, 2(金)

第20号

宜野湾市立  
大謝名小学校

校内新聞

「スタ場」とは、「スタートの場」「スタディの場」「スターの場」を表しています。

## 大きなうずまき雲 ～台風のサイエンス①～



2ページ  
あります

台風11号の接近が心配されましたが、昨日の始業式が無事にでき、少しほっとしたところです。でも、この後も台風の動きに気をつけて過ごしましょう。

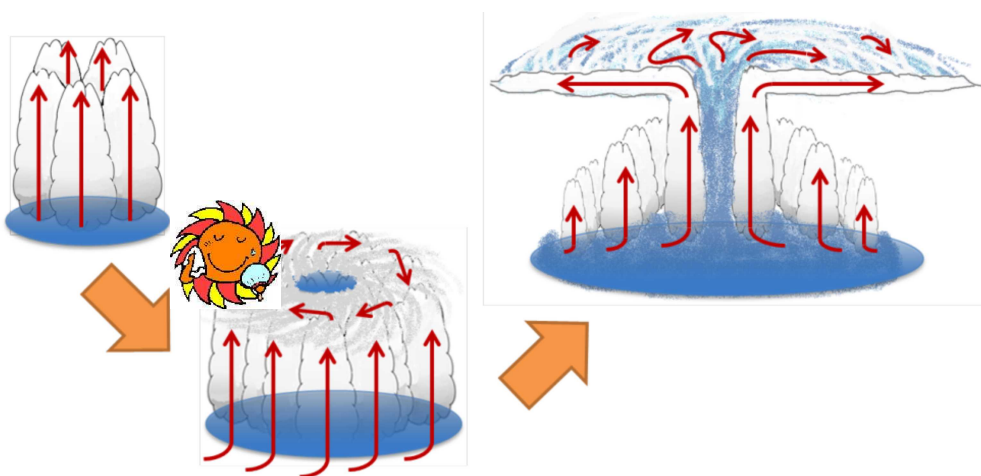
さて、台風はどんなメカニズムで発生するのでしょうか。

台風は、熱帯の海洋上で生まれた低気圧のうち、最大瞬間風速が17.2m/s以上になったものをいいます。熱帯地方では、強い日光で海水面からたくさん水蒸気が発生し、強い上昇気流となります（4年生の、「水は蒸発すること」「あたためられた空気は体積が大きくなること」などを学習と関係します）。

その上昇気流に、さらにまわりの水蒸気が流れ込み、地球の自転の影響でうずまき状になって台風成長します。日本の位置する北半球では反時計回りに、南半球では時計回りに風が吹き込むうずまきができるのです。

台風は、英語ではTyphoon（タイフーン）、インドの南側で発生したものはサイクロン、アメリカの南部やオーストラリアの東側で発生したものはハリケーンと呼ばれます。

台風が沖縄に接近するのは、6～10月が多いです。この時期は、発生して数日



台風の構造

で大きく発達し、急速に接近してくる台風が多いので、台風発生ニュースを聞いたなら、テレビや新聞、インターネットなどの台風情報をこまめにチェックして下さいね。

(文責：玉村かおり)

# 台風 大きさや強さの表し方は? ~台風のサイエンス②~

ニュースやテレビのテロップに流れる台風の大きさや強さはどのように決められているのでしょうか。気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安として、下の表のように台風の「大きさ」と「強さ」を表現しています。

台風の「大きさ」は、強風域（平均風速15m/s以上の風が吹いている範囲）の半径です。また、「強さ」は、最大風速によって区分されています。

台風11号は9月2日午前6時には、中心気圧が925hPa（ヘクトパスカル）、中心付近の最大風速が50m/s、風速15m/s以上の強

台風の大きさの階級分け

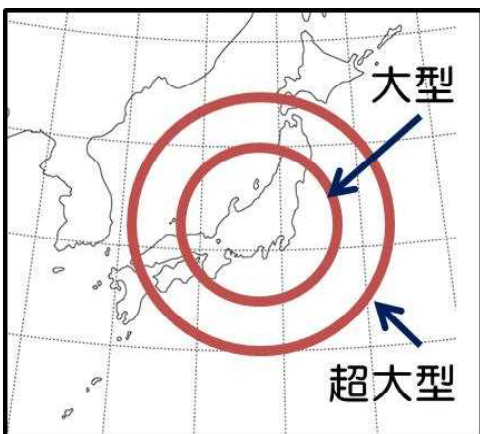
階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

風半径が、北側で560km、南側で330kmでした。なので、この時は「非常に強い」台風となるわけです。

台風の強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

左下の図は「大型台風」「超大型台風」のそれぞれの大きさを日本列島の大きさと比較したものです。台風11号は、内側の円よりやや小さい大きさとなります。



「大型」「超大型」の台風の大きさ

さらに、強風域の内側で、平均風速25m/s以上の強い風が吹いている範囲を「暴風域」と呼びます。暴風域に入ると、人は立って歩くことが困難になり、建物は、飛来物で窓ガラスが割れたりします。台風の接近・通過中は不要な外出は控え、危険な場所に近づかないようにしましょう。

さて、時々耳にする「スーパー台風」ですが、これは米軍合同台風警報情報センター（JTWC）の台風の分類の強さによる「SuperTyphoon」の直訳です。これは、最大風速が130ノット（=67m/s）を超える非常に強い台風です。日本の分類の「猛烈な」台風よりさらに強い台風なのです（文責：玉村かおり）